

第1類医薬品の苦戦から漢方製剤に販路期待の動きも
総合感冒薬、尿もれ改善薬、ドリンク剤、肥満防止剤などの国内市場を調査

10年見込(改正薬事法施行7ヶ月を含む09年比)

漢方処方エキス製剤 177億円 (1.7%増) 第2類100%・多岐効能に期待感
頻尿・尿もれ改善薬 25億円 (8.7%増) 啓発活動による需要開拓で

一般用医薬品市場調査(2)(3)

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、改正薬事法により変動する国内の一般用医薬品の主要薬効73分野の調査を今年1月から4月にかけて実施し、分析の結果を3回に分けてまとめた。今回は、報告書「一般用医薬品データブック 2010 No. 2」、「一般用医薬品データブック 2010 No. 3」から、その概要を紹介する。

調査対象は、感冒関連用薬、循環器・血液用薬、泌尿器官用薬、歯科口腔用薬、ドリンク剤、ビタミン剤、その他精神神経用薬、それに漢方薬などの10分野50品目の市場を明らかにすると共に13年に向けて市場を予測した。

改正薬事法(09年6月施行)は、一般用医薬品を副作用リスクの高い順から第1類、第2類、第3類に分け、第1類は薬剤師に取り扱いを限定し、第2類は薬剤師の他に新たに登録販売者の取り扱いも可能としている。第3類は、通信販売も可能となる。ただし、通信販売の取り扱いが第3類に限定されることに対して日本オンラインドラッグ協会や全国伝統薬連絡協議会が反対の姿勢を表明しており、紆余曲折が予想される。また、第1類の取り扱いについてさまざまな課題が明らかになりつつある。

<調査結果の概要>

	2009年	08年比	2010年(見込)	09年比
一般用医薬品市場	6,251億円	99.5%	6,247億円	99.9%

09年は、新型インフルエンザの流行で医療機関受診の傾向が強まり、市場規模の大きい総合感冒薬は562億円と前年から6.6%も落ち込み、感染予防意識の高まりから含嗽剤特需(96億円前年比33%増)が生じた。

ドリンク剤とミニドリンク剤(一般用医薬品と医薬部外品を合わせた市場)は08年は天候不順で減少した。09年はミニドリンク剤が女性用や新概念製品の投入で増加(621億円、前年比1.1%増)したが、冷夏でドリンク剤が低迷(1,039億円前年比3.9%減)して、全体では減少となった。

改正薬事法は、第1類の取扱店減少や取り扱い時間の縮小の影響から大幅に実績が減少する薬効品目も見られた。特に、販売実績が大きかった制酸薬、禁煙補助剤市場では09年は前年比で10%以上の大幅な減少となった。また市場は小規模であるが、新薬効製品として認知途上のみみ治療薬、口唇ヘルペス治療薬、エネルギー代謝改善薬などは、改正薬事法で第1類に分類され売り場の露出が低下して市場は減少した。市場全体では第2類の薬効品目が多いため、09年の減少は季節要因による需要減退が大きかった。

10年1月にはロキソプロフェンナトリウム水和物、エピナスチン塩酸塩、トロキシピドを有効成分とする第1類医薬品が承認されるなど、一般用医薬品市場の停滞状況を打破するために、スイッチOTCを積極的に展開し新規薬効領域開拓や顧客獲得を目指す動きが活発化している。

総合感冒薬

10年見込み 554億円(09年比98.6%)

09年は新型インフルエンザの流行で医療機関に需要を奪われ、改正薬事法による第1類の販売減が追い討ちを受け、10年も3月時点で前年より20%程度のマイナスと2年続きの縮小市場である。ただ、この分野は、第2類が90%以上のため改正薬事法の影響は比較的少ないと見ている。大正製薬と第一三共ヘルスケアでシェア約5

0%（10年見込）を占め、従来の総合効能訴求から個別症状訴求の需要開拓へと定着を図っている。今後第1類をはじめ機能性の高い製品の需要が回復すれば、市場全体も回復に向かうと予測される。

鼻炎治療剤

10年見込み 181億円（09年比96.3%）

厚生労働省から08年、09年と複数成分が一般用医薬品へ転用を承認された。09年の改正薬事法で第1類に分類される製品の落ち込みが目立ったが、花粉飛散時期の早まりや量の多さから第2類を中心に多くの製品が好調に推移した。改正薬事法や新型インフルエンザの流行に、鼻炎治療剤の需要期が重ならなかったこともプラスに作用した。アレルギー患者数は増加推移するとの見方も強く、今後、販売制度の整備が進めば、花粉飛散量・期間の影響を大きく受けながらも、市場は増加基調が予想される。更に10年にはエピナスチン塩酸塩が承認され第1類に加わる可能性が高い。新規成分配合のスイッチOTCが加われば市場拡大に寄与するであろう。

頻尿・尿もれ改善薬

10年見込み 25億円（09年比108.7%）

08年に興和新薬「レディガードコーワ」（第1類）が発売され女性用という新たな切り口を提案した。小林製薬が飲みやすい錠剤タイプの実績を拡大したことも加わり市場は増加した。09年は前年の各社の新製品好調の影響を受けて大鵬薬品工業「ハルンケア」が実績を回復し、小林製薬とシェア上位2社が着実に実績を高めた。興和新薬の新製品「ジェントルスルーコーワ」の実績が加わり市場全体は増加し続けている。

まだ潜在需要は大きく認知度を高める必要性が強い。潜在需要に対する市場拡大ペースは鈍いと見られ啓発活動による着実な需要開拓の継続が必要である。消費者が症状を相談しにくいいため、購入しやすい売場環境を整え、セルフ購入時に判断に役立つ宣材を提供するなどにより、今後も市場は拡大する。また日本OTC医薬品協会から頻尿治療剤、排尿障害剤のスイッチOTC候補が公表されており、この新製品が登場すると市場は更に拡大する。

口内炎治療剤

10年見込み 25億円（09年比108.7%）

09年は改正薬事法により店頭陳列が変更され、第1類は実績を縮小した。その一方で第3類は販売規模を拡大した。その背景には、第1類の代替品としての拡販と、口内炎治療剤に対する認識の高まりがある。08年には第一三共ヘルスケアが「トラフル錠」をヒットさせ、市場は前年に比べ50%近く増加して20億円に達した。09年も第3類が牽引して市場は伸び続けている。10年は第1類の回復により市場全体で増加する可能性が高くなっている。口内炎治療剤の需要は高まり、着実な市場の成長が予想される。今後新規成分のスイッチOTCが登場すれば更に市場は拡大すると予想する。

ドリンク剤

10年見込み 1,026億円（09年比98.7%）

1回飲みきりタイプの液剤で、100mlサイズの製品とした。ドリンク剤は機能性清涼飲料の多様化の影響を受けて、疲労回復、滋養強壮全般からニーズに対応して細分化した製品によって需要を活性化する動きが顕著である。08年から2年続きで天候不順と景気の悪化から需要が減退して市場は減少を続けた。最近女性向けや目的別製品で新しいユーザーが増加しており、回復の兆しが見え始めている。09年シェア60%超の大正製薬は主力の「リポビタミンD」が減少したが、新ブランドの「リポビタミンファイン」「リポビタミンハーフ」「リポビタミンエース」そして脂肪代謝訴求の「リポビタミンFB」が順調に伸びており新ユーザーを開拓しつつある。

肥満防止剤

10年見込み 129億円（09年比104.9%）

肥満症に効能・効果があり、漢方処方製の製品がほとんどを占めるが、洋薬のイメージで販売されている製品を対象とする。07年に小林製薬「ナイトール85」が男性向けメタボ対策の新需要の開拓に成功し、メタボ対策ブームから100億円を超える市場に成長した。09年はメタボ対策ブームが落ち着き、男性をターゲットとした製品から女性向けにシフトして代謝改善、便秘改善によるダイエット訴求の製品が好調に増加し続けている。今後も市場は拡大すると予測されるが、ただダイエット訴求製品が、H・Bフーズやダイエット機器の動向に左右されるため関連領域との棲み分けが課題となる。

漢方処方エキス製剤

10年見込み 177億円（09年比101.7%）

09年は、防風通聖散が男性のメタボ対策と女性のダイエット訴求により順調に推移し、更にインフルエンザに関連して医療機関の麻黄湯処方注目され、一般用医薬品においても麻黄湯需要が拡大した。

今後更に、多岐に亘る効能効果は、たとえば循環器領域など洋薬では訴求が難しい領域への参入も期待でき漢方

薬市場は順調に推移すると予測する。また、第1類が全般的に苦戦する中、多岐に亘る効能効果を持ちかつ第2類である漢方処方エキス製剤の位置づけが高まる可能性がある。

特定の処方集中する現状のセルフ販売の限界を越えるためには、カウンセリング機能を定着させる販売手法が必要である。改正薬事法によるインターネット通販と郵送販売規制も、漢方処方エキス製剤市場にとって店頭政策が重要になる。参入企業は、苦戦する第1類に代えて漢方処方エキス製剤の棚割り強化に動きつつある。また通販規制に対して従来通り漢方薬の郵送販売を維持出来るように、“漢方薬など医薬品の郵送販売継続を守る会”を立ち上げ署名運動を行なっている。市場は、クラシエ薬品、ロート製薬、ツムラの3社で約70%(10年見込)を占め、店舗展開、新製品導入、活発な販促活動で市場を拡大しつつある。

以上

< 調査対象 >

分野	品目
感冒関連用薬	総合感冒薬 葛根湯液 解熱鎮痛剤 鼻炎治療剤 鎮咳去痰剤 トロチ剤 含嗽剤
その他精神神経用薬	催眠鎮静剤 眠気倦怠防止剤 鎮暈剤 小児五疳薬
泌尿器官用薬	痔疾用薬 頻尿・尿もれ改善薬 膣カンジダ治療薬 避妊薬 強精剤
歯科口腔用薬	歯槽膿漏治療剤 外用歯痛剤 殺菌塗布剤 口内炎治療剤
その他医薬品	殺虫剤 耳疾患用剤 いびき抑制薬 抗ヒスタミン剤 OTC検査薬 禁煙補助剤
ドリンク剤	ドリンク剤 ミニドリンク剤 肩こりドリンク剤
ビタミン剤	ビタミンA・D主薬製剤 ビタミンB1主薬製剤 関節痛治療薬 ビタミンB1B6B12主薬製剤 その他ビタミンB主薬製剤 ビタミンC主薬製剤 しみ治療薬 ビタミンE主薬製剤 ビタミンEC主薬製剤 総合ビタミン剤
その他保健薬	カルシウム剤 滋養強壮剤 エネルギー代謝改善薬 強肝解毒栄養剤 薬用酒 女性保健薬
循環器・血液用薬	強心剤 血清高コレステロール改善薬 造血剤 肥満防止剤
漢方薬	漢方処方エキス剤

< 調査方法 >

富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング調査及び薬事工業生産動態統計、有価証券報告書その他関連する公表データ・文献を併用

・販売金額は、メーカー出荷金額

< 調査期間 >

2010年2月～5月

資料タイトル	「一般用医薬品データブック2010 No.2、No.3」
体裁	A4判 No.2 241頁 No.3 250頁
価格	各100,000円 (税込み105,000円)
調査・編集	富士経済 東京マーケティング本部 第二事業部 ヘルスケアグループ TEL:03-3664-5831 FAX:03-3661-9778
発行所	株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL:03-3664-5811 (代) FAX:03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL: http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ https://www.fuji-keizai.co.jp/